

洗剤等の出荷実績概況

2024年（令和6年）1月～12月

（出荷単位：t・％：前年同期比）

2024年度（1-12月）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する13社の出荷実績は32,542トン・前年比で1,482t減の95.6%となりました。

上期（1-6月）は15,316トンの出荷で前年比805t減の95.0%、下期（7-12月）は17,226tの出荷で前年比677t減の96.2%でありました。

当同業会の出荷実績は、2019年までは5年連続の出荷増でありました。しかしながら、2020年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けてホームクリーニング分野・テキスタイルリネン分野とも市場が低迷し、2023年まで減少が継続しておりました。2024年は、前年を上回る実績となった項目もあり、回復基調にある分野と未だ厳しい分野に明暗の別れる環境にあるものと推察します。

項目 / 期・前年比	2023年 (14社)			2024年 (13社)					
	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	37	33	70	36	97.3%	31	93.9%	67	95.7%
ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	13	9	22	8	61.5%	5	55.6%	13	59.1%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	371	329	700	341	91.9%	303	92.1%	644	92.0%
ドライ合計	421	371	792	385	91.4%	339	91.4%	724	91.4%
ランドリー用石鹼	111	88	199	82	73.9%	78	88.6%	160	80.4%
ランドリー用合成洗剤(粉末)	6,233	6,827	13,060	5,541	88.9%	6,090	89.2%	11,631	89.1%
ランドリー用合成洗剤(液体)	5,344	6,254	11,598	5,734	107.3%	6,741	107.8%	12,475	107.6%
ランドリー用合成洗剤合計	11,577	13,081	24,658	11,275	97.4%	12,831	98.1%	24,106	97.8%
ランドリー用ソフター合計 (うち濃縮タイプ)	2,969	3,275	6,244	2,812	94.7%	3,135	95.7%	5,947	95.2%
ランドリー用粉末漂白剤	477	513	990	350	73.4%	374	72.9%	724	73.1%
再販用合成洗剤合計 (うちコンパクト)	326	327	653	208	63.8%	248	75.8%	456	69.8%
合成糊剤	240	248	488	204	85.0%	221	89.1%	425	87.1%
期総計・前年比	16,121	17,903	34,024	15,316	95.0%	17,226	96.2%	32,542	95.6%

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（リネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③おしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む）であり、洗剤メーカーの立場から顧客概況を含めご報告致します。更に、項目別出荷概況を報告いたします。

1. ホームクリーニング市場

2024年度1-12月度の総務省統計局『家計調査報告』によると、全国全世帯（二人以上の世帯）のクリーニング代支出額は、4,569円で前年比143円減の97.0%となりました。2022年、23年と2年連続増加し回復基調となっておりましたが、頭打ちとなりました。新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の5,937円と比較しましても、77.0%であることを鑑みますと、市場減少の厳しい環境が継続しているとも言えます。この状況の背景としましては、2005年に始まったクール・ビズ、2019年に提唱されたビジネスカジュアルの定着化、更に働き方改革の一環として推進されたリモートワークが、新型コロナウイルス感染症拡大により定着化し、ホームクリーニング市場の減少に大きな影響を与えたと推察します。今後は、インターネットを活用した集配サービス、24時間無人受付システムなど、お客様の利便性向上提案が不可欠であり、これら新たな提案に対する投資力を有した大手チェーンへのシフトが加速していくものと推察致します。当同業会としましても、ホームクリーニング市場のビジネスモデル変化に即した提案を積極的に行ってまいります。

2. テキスタイルリネンサプライ市場

－1) ホテル分野

ホテルリネン分野は、新型コロナ感染の収束後、宿泊者数が大きく回復しました。観光庁の宿泊旅行統計調査によりますと、全国の延べ宿泊者数は、6億5,028万人（前年比105.3%、19年比109.1%）となりコロナ禍前を超えた昨年よりも、さらに増加しました。内訳としまして、日本人の延べ宿泊者数は、4億8,668万人（前年比97.4%、19年比101.3%）、外国人の延べ宿泊者数は、1億6,360万人（前年比138.9%、19年比141.5%）と、円安を背景に外国人の増加が全体をけん引しました。また、その外国人の中では、前年比229.7%と中国の回復が目覚ましく、国別ランクでも断トツの1位に返り咲きました。今後さらに、大阪万博開催、中国人観光客のさらなる増加など、市場拡大が大いに期待されます。一方で、これらのプラス要因を最大享受する為には、ホテル、及びリネンサプライヤーにおける従業員の人手確保と業務効率化が必須であり、当同業会としても、引き続き、リネンのSCM（サプライチェーンマネジメント）全体視点からの貢献策を提案して参りたいと考えます。

－2) 病院リネン関連・ダイアパー分野

病院リネン関連分野は、厚生労働省医療施設調査によると、施設総病床数は、2023年12月末と2024年12月末の比較で、156.0万病床が153.9万病床と2.1万病床減少しました。その中で、病院病床数を見ます、148.4万病床から146.7万病床と約1.7万病床減と減少傾向が継続しております。当分野は、上記病床数減少が今後も継続することを前提とし、病院基準寝具の微減分を、入院患者の私物洗濯、医療作業従事者のユニホーム洗浄、1日単位で入院患者にレンタルする入院セット等の需要の伸びでカバーしてきましたが、今後は、例えば、老健施設向けのリネン品や私物洗濯の取り込みなど、高齢化と従業員不足といった市場環境の変化への取り組みが加速していくものと考えております。当該分野においては、医療事業機関等からの衛生に対する要望が強く、当同業会としまして除菌・抗菌剤の提供等衛生に関する支援を行ってまいります。

尚、ダイアパー分野は、貸しオムツから紙オムツへの移行が継続しております。そこで、入院患者に対し、貸しオムツと使い捨て紙オムツの提供を展開するも、スーパー・ドラッグストアの安価品購入や通信販売ルートでの成長が、減少傾向に拍車をかけており、今後も同様の傾向が継続するものと推察致します。

－3) ダストコントロール分野

ダストコントロール分野はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める分野ですが、一旦陥った需要減少からの回復に遅れが見られます。リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品に対しては、家庭品流通からの購入への移行などにより、価格競争が激化しているものと推察致します。また、マットやモップ素材には、石油原料が使用されていることから、ここ数年の原油高、為替の影響を強く受け、非常に厳しい環境に置かれているものと推察致します。

一方で、マットやモップに対しては、使用上の特徴から超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更に多種多様な素材変化に対応していく事も重要になっております。当同業会としては、リース品の耐久性も含め高度な洗浄技術を提供し、課題解決に向けた取組みを実現したいと考えます。

3. おしぼり・施設ランドリー（コインランドリー含む）分野

おしぼり分野は、新型コロナ感染症の影響による、外食産業の営業自粛・時短営業要請により、おしぼりの使用場面が激減し、ホテルリネン分野同様に最も苦戦した分野でありました。しかし、現在では、インバウンドの影響もあり、『ディナーレストラン』分野は前年ベースまで回復しております。さらに、回復スピードが遅かった『居酒屋／パブ系』も着実に稼働が上がりつつあります。但し、長きに渡った自粛生活の中で、宴会習慣の希薄化、及び店舗自体の減少による需要縮小に伴い、低コストな紙おしぼりへの切替えは止まっておらず、おしぼり分野を取り巻く環境は、未だ厳しい状況にあるものと推定しております。

次に、施設ランドリー分野です。まずコインランドリーは、これまで安定的に推移して参りましたが、少しずつ競争激化しつつあり、業界としての高付加価値化や他店との差別性確保が課題となっております。この状況下、B to C向けのナショナルブランドや香り訴求型柔軟剤等のラインナップが広がるものと推察します。また、老健施設等の自家ランドリー（OPL）ですが、コロナ感染症の影響を受けず、施設数も増加しており、安定的な分野であると考えております。但し、施設従業員の人手不足が深刻化しており、大規模施設を中心に、病院向けリネンサプライヤーなどへの外部委託化も進んでいくものと考えております。

4. 2024年度総計・タイプ別出荷状況報告

- 1) ドライ用洗剤

項目 / 期・前年比	2023年 (14社)			2024年 (13社)					
	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	37	33	70	36	97.3%	31	93.9%	67	95.7%
ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	13	9	22	8	61.5%	5	55.6%	13	59.1%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	371	329	700	341	91.9%	303	92.1%	644	92.0%
ドライ合計	421	371	792	385	91.4%	339	91.4%	724	91.4%

ドライクリーニング用洗剤合計は前年比で68 t減の724 t（前年比91.4%）となり、上期・下期共に前年割れの出荷実績となりました。コロナ禍以前からも大きく減少した状況であり、厳しい市場環境が継続しているものと推察します。

パーク系は、前年比で3 t減の67 t（前年比95.7%）と、長期的な減少傾向に歯止めがかからず、厳しい状況が継続しています。

フッソ系は、前年比で9 t減の13 t（前年比59.1%）となり、ここ数年のトレンドである減少傾向がさらに顕著に表れる結果となりました。

石油系は、前年比で56 t減の644 t（前年比92.0%）となりました。上記2系統と同様、石油系の減少傾向も継続していくものと推察しております。

- 2) ランドリー石鹼

項目 / 期・前年比	2023年 (14社)			2024年 (13社)					
	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用石鹼	111	88	199	82	73.9%	78	88.6%	160	80.4%

ランドリー石鹼は前年比、39 t減の160 t（前年比80.4%）となりました。従来からの、ランドリー用合成洗剤への移行というトレンドは、継続しているものと考えており、当同業会としても製品供給性の確保が課題になって参るものと考えます。

- 3) ランドリー用合成洗剤

項目 / 期・前年比	2023年 (14社)			2024年 (13社)					
	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	6,233	6,827	13,060	5,541	88.9%	6,090	89.2%	11,631	89.1%
ランドリー用合成洗剤(液体)	5,344	6,254	11,598	5,734	107.3%	6,741	107.8%	12,475	107.6%
ランドリー用合成洗剤合計	11,577	13,081	24,658	11,275	97.4%	12,831	98.1%	24,106	97.8%

ランドリー用合成洗剤(粉体)は、2020年から2023年の4年間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、出荷減が継続してきました。2024年も、1,429 t減の11,631 t（前年比89.1%）と出荷減となりました。

これに対し、ランドリー用合成洗剤(液体)は、877 t増の12,475 t（前年比107.6%）となり、粉末洗剤とは対照的な結果となりました。これは、施設ランドリー・コインランドリーでの液体洗剤需要が比較的安定であること、さらに、リネンサプライヤーにおいて、液体自動供給システム導入による、作業性改善や品質安定化等のメリットが重要視され、粉末洗剤から液体洗剤への移行が進んでいることが要因であると推察しております。当同業会としても、この市場ニーズの変化に即応した提案を行うべく取り組んでまいります。

－ 4) ランドリー用ソフター・漂白剤・合成糊剤

項目 / 期・前年比	2023年 (14社)			2024年 (13社)					
	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用ソフター合計 (うち濃縮タイプ)	2,969	3,275	6,244	2,812	94.7%	3,135	95.7%	5,947	95.2%
ランドリー用粉末漂白剤	477	513	990	350	73.4%	374	72.9%	724	73.1%
合成糊剤	240	248	488	204	85.0%	221	89.1%	425	87.1%

- ① ランドリー用ソフターは、297 t 減の 5,947 t (前年比 95.2%) となりましたが、その中で、濃縮タイプは、前年比 131 t 増の 1,025 t (前年比 114.7%) の出荷量となりました。これは、原価高騰の中でコスト抑制対策として、濃縮タイプへの切り替えが進んだものと考えておりますが、今後も動向を注視して参ります。
- ② ランドリー用粉末漂白剤は、266 t 減の 724 t (前年比 73.1%) と大幅な減少となりました。製品の特性上、原料高騰の影響を受けやすく、輸入品へのシフトが起きたこと、及び粉末漂白剤の主な出荷先であるホームクリーニング市場の縮小傾向に連動したものと推察しております。
- ③ 合成糊剤は、63 t 減の 425 t (前年比 87.1%) と減少が継続しております。シャツやカッターシャツ・ワイシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少していくものと予測しております。

－ 5) 再販用合成洗剤

項目 / 期・前年比	2023年 (14社)			2024年 (13社)					
	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
再販用合成洗剤合計 (うちコンパクト)	326	327	653	208	63.8%	248	75.8%	456	69.8%
	88	138	226	73	83.0%	135	97.8%	208	92.0%

再販用合成洗剤は、197 t 減の 456 t (前年比 69.8%) と大幅減でありました。また、濃縮タイプは前年比 18 t 減の 208 t (前年比 92.0%) と微減であり、コンパクト品へシフトする動きが認められました。1994 年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退項目となっております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、他流通からの液体洗剤参入の影響、更に、原価高騰の影響により再販合成洗剤の販売を取りやめるメーカーもあり、このトレンドは継続するものと推察します。

5. まとめ

当同業会の 2024 年度の出荷総計は 32,542 トン・前年比で 1,482 t 減の 95.6% という結果でありました。現在、2020 年から続いた新型コロナウイルス感染症の影響から脱し、訪日外国人旅行者が 3,687 万人 (出典：日本政府観光局) と過去最高を記録し、経済活動が回復する中、ランドリー用合成洗剤やソフターの一部項目が前年以上の出荷実績となる等、期待の持てる状況となって参りました。今後、さらに大阪万博効果、中国人旅行者のさらなる増加も予想されます。しかし、一方で観光客を受け入れる宿泊施設やリネンを提供するサプライヤーでの人手不足問題も顕在化しております。また、分野別では、長期低迷傾向が継続する『ホームクリーニング』、一旦冷え込んだ底から回復の遅い『おしぼり』や『ダスコン』など、市場の事情に応じて明暗が分かれる状況となっております。

今後も、地政学的問題や新型コロナウイルス感染症の影響に端を発した為替安など、世界状況の日本経済へ与える影響は大きく、クリーニング業界も厳しい市場環境にさらされております。洗剤価格改定の動きも少なからず継続するものと推測され、慎重に対応していく必要があると考えます。

以上の状況下、当同業会 13 社は、将来に向けて洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に貢献して参ります。

以 上